

グローバル人材育成プログラムに参加して

原 田 棕 平
Ryohei HARADA

機械工学・ロボティクス課程 3年

1. はじめに

私は、2023年8月17日から9月4日の19日間、カリフォルニア州サンフランシスコ及びシリコンバレーで行われたグローバル人材育成プログラムに参加した。

本プログラムは次の日程で活動した。

表1 実習日程

8/17	サンフランシスコ見学ツアー
8/18	シリコンバレー IT 企業見学ツアー
8/19	スタンフォード大学見学 グローバルキャリアセミナー
8/20	ホストファミリーや現地学生との 交流会
8/21～9/2	企業研修
9/3～9/4	帰国

2. 参加目的

目的は大きく2つある。

1つ目は、グローバルに活躍する人材はどのような特徴を持っているのか、また今の自分には何が必要なのかを知ることだ。

私は、2回生の時に GCCP というプログラムに参加した際に、グローバルに活躍する人材について考えたことがあった。しかし、実際に海外で働いたことがなかったので想像や他人の経験だけで考えるしかなかった。そこで、このプログラムで実際にしたり、働いてみて知ることができるのではないかと考えた。

2つ目は、語学力の向上である。

英語は学校で習ってきたが、英語だけで生活した

ことはなかった。そこで、実際にアメリカに行き、英語で生活することで、語学力の向上につながると考え、参加した。

3. シリコンバレー IT 企業見学

この見学では、Google, Apple, Oracle, intel などの世界でも注目されている企業を中心に見学した。その中でも印象に残っているのは、Oracle である。Oracle を見学した際には、現地で働いている日本人のエンジニアの方が案内してくださった。また、お話を聴いたり、質問に答えていただいたりした。そこで、海外で働くためには、コミュニケーション能力と積極性が重要であると聴いた。そのお話を聴いて、何事にも積極的に動き、人とコミュニケーションと取ることを大切にしようと思った。

4. グローバルキャリアセミナー

本セミナーでは、起業家の井坂悟さんと Nippon Trend Food の山下英幸さんの講演を聴いた。

井坂さんは AI の研究やアメリカでの企業とビジネス展開をされており、AI の進化についてもお話をされとても興味深かった。

山下さんは社長までの経緯や人として大事なこと（真面目さ、謙虚など）を教えてくださいました。

5. 企業研修

今回、私がお世話になった企業は、カリフォルニア州サンノゼに位置する Senju Comtek Corp である。

Senju Comtek Corp は、千住金属株式会社の関連会社であり、主に intel と取引されている。

また千住金属株式会社は、はんだ部門・FA 装置部門・軸受部門を基軸に、一貫してエレクトロニクス・機械産業関連分野の製品を手がけている。

研修内容としては、今回私は、「ソルダーペースト」と呼ばれるはんだ付け材料の製品の、製造補助業務、検査補助業務、出荷補助業務を体験した。

製造補助業務では、製品が製造されるまでを学ぶ



図1 Senju Comtek Corp (サンノゼ工場)

ことができ、検査補助業務では、どの検査でなにを確認しているのか、出荷補助業務では、どのように製品を出荷しているのかを学んだ。

どの工程も確認事項が多く、わからないことが多かった。しかし、従業員の方はみなさん気さくで、英語が得意でなかった私に、わかるまで丁寧に教えてくださった。

また、はんだ付け材料の種類や性質、成分など講義をしていただいた。ソルダーペーストの性質においては実際に実験していただいた。

本研修で、研修先の企業が行っている製造の流れを体験することができ、有意義な研修であった。

6. ホームステイ

私は、Lam & Rie 夫妻と娘さん2人のご家族にお世話になった。とてもフレンドリーで、すぐに不安はなくなった。Lam さんのことは Keni と呼んでいた。

平日は、毎朝、娘さんが挨拶をしに来てくれたり、研修が終わって帰ってきたら毎日 Keni さんが「今日は何をしたか」と話しかけてくださった。また、Keni さんと娘さんと一緒にテラスで遊んだりした。

休日は、Ocean Beach まで車で行き観光したり、

ご飯に連れて行ってくださったりした。

また、私が遊びに行くというとおすすめのお店や観光地を教えてくださいました。家の近くであれば、車で送っていただいたりした。

このご家族は、以前にもホストファミリーとして受け入れたことがあったみたいで、そのときのお話も聴かせてくださった。

このホストファミリーで過ごしたのはたった2週間かもしれないが、2週間とは思えないほどの思い出ができた。また、文化や考え方など多くの学びを得ることができた。

7. おわりに

今回このプログラムを通して、英語で日常生活を送る難しさを知った。研修先の企業の従業員の方と話しているときに、話しかけることができて話しかけられたときの話題を理解することが難しかったからだ。

次に、目的であったグローバルに活躍する人材について感じたことがあった。それは、コミュニケーション能力と異文化理解である。実際に企業で働いてみて、現地の人は上下関係なく自分の意見を伝え合っていた。その結果、ミスを未然に防いでいた。

また、異文化という点でアメリカでの研修において時間にそれほど厳しくないということだ。基本的には、時間を守っていたが少し遅れたりしても特に気にすることなく過ごしていた。日本は、比較的時間に厳しいイメージがあり、ここは文化の違いを感じた。以上から、グローバルに活躍するためにはコミュニケーション能力や異文化理解が必要であると考えた。

最後に、初めてのアメリカということで不安なことが多くあったが、語学力がなくてもいろいろな人が助けてくれたり、日本では経験することのできないことができた貴重な体験であった。